

平成15年12月4日

国土交通省

## 国土交通省紹介施策

### 施策名

#### (1) 若年齢層へのマリンレジャー事故防止のための安全指導

#### (2) 若者の水難救済ボランティア教室

### 1. 背景

マリンレジャーに伴う海浜事故者数は年々増加傾向にあることから、海での安全思想を、次の世代を担う小中学生等の若年齢層に対して、広く普及し、これの減少に資するとともに、海での安全思想を草の根的に浸透させる。

### 2. 目的

- (1) 小中学生等の若年齢層に対し、海での安全思想を効果的に普及させ、その尊い生命を守り、若年齢層のマリンレジャーに伴う海浜事故者数の減少を目指す。
- (2) 小中学生等に対して、海難事故防止指導及び事故時の救急法の実技講習を行い、人命、財産の救助にあたる水難救済のボランティア活動思想の普及啓蒙を図る。

### 3. 施策の概要（対象、内容、効果）

- (1) 海上保安庁では、小中学生等の若年齢層に対し、海での安全思想を効果的に普及し、その尊い生命を守るため、文部科学省（スポーツ・青少年局生涯スポーツ課）を通じ、各都道府県教育委員会に対して、地域における安全指導の実施について協力依頼を行い、海上保安官による学校訪問、巡視船艇への体験乗船、海上保安施設の見学等を通じて、ライフジャケットの常時着用をはじめとするマリンレジャー事故防止のための安全指導活動を実施した。（別添1参照）

これらの取り組みにより、例年、マリンレジャーが最も盛んとなる7、

8月期における若年齢層のマリンレジャーに伴う海浜事故者数は、昨年の同時期と比較して17人減少している。

- (2) (社)日本水難救済会では、平成13年から、水難救済のボランティア活動思想の普及啓蒙を図るため、文部科学省を通じ、各都道府県教育委員会に対して「若者の水難救済ボランティア教室」の開催について協力依頼を行い、地元消防、海上保安部署、ライフセービングクラブ等の協力を受け、小中学生等を対象に、海での安全を守ることの大切さ、人命救助活動等の社会奉仕の尊さを伝承するとともに、マリンレジャーにおける事故防止のための心構えや初歩的な救急法等の講習を実施している。

平成15年度は、10月末までに、同教室を35府県において52回開催し、4,903名の参加者を得ている(別紙2参照)。

#### 4. 連絡先：海上保安庁警備救難部救難課

氏名 恵本 康弘 内線番号 74-534

●体験乗船に参加した小学生による操船風景



●小学生に対するライフジャケットの着装指導



●巡視船のウィングにて海風を浴びて喜ぶ小学生達



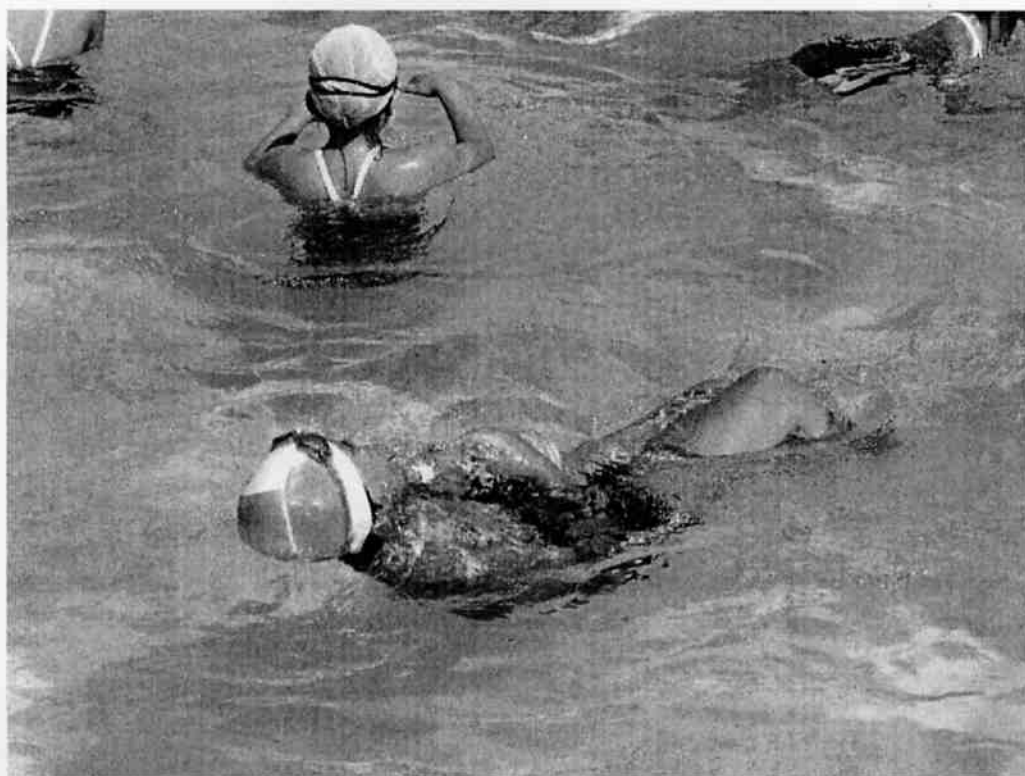
●巡視船を訪れた親子に対しての応急救助法実演指導及び体験



● 幼稚園児に対する最新（自動膨張）型ライフジャケットの説明



● ペットボトル等を利用しての浮くための体験訓練



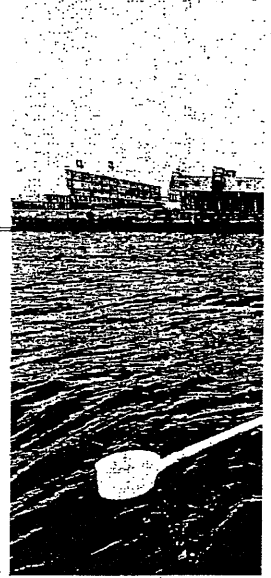
●レスキューチューブを用いての救急実技講習を受ける中学生達



●着衣水法の実技講習を受ける中学生



7/26 K



巡視船「いす」 小学生が体験学習

# 美しい海を守れ



救う 「いす」の乗組員が、小学生を乗せて、心算練習の場の手

教室やイベント多彩  
 横浜港に停泊中の巡視船「いす」が、7月26日(土)に三回目を開催した「いす」乗組員が、小学生を乗せて、心算練習の場の手



探る 大規模災害に対応する「いす」の乗組員が、小学生を乗せて、心算練習の場の手

「いす」は、21日(土)の夜、横浜港に停泊中の巡視船「いす」が、7月26日(土)に三回目を開催した「いす」乗組員が、小学生を乗せて、心算練習の場の手

神奈川県  
7/26

7/26 K



観る 20日夜の国花火大会は、いすの船上から見

2003年(平成15年)7月19日(土曜日)

千葉 (日刊) 2003年(平成15年)7月19日(土曜日)

# 水難救助に 一役

勝浦・興津中で教室、先生は海保署員ら

勝浦市立興津中(高瀬利之校長)で日本水難救済会主催の「若者の水難救済ボランティア教室」が行われた。勝浦海上保安署と勝浦消防署の署員が中学を訪れ、事故に遭わないための注意点と心肺蘇生法を全校生徒に伝授した。



人工呼吸と心臓マッサージに挑戦する生徒たち(勝浦市立興津中体育館)

## 生徒に心肺蘇生法伝授

「勇気と自信を」

いざという時は  
「勇気と自信を」

勝浦市立興津中(高瀬利之校長)で日本水難救済会主催の「若者の水難救済ボランティア教室」が行われた。勝浦海上保安署と勝浦消防署の署員が中学を訪れ、事故に遭わないための注意点と心肺蘇生法を全校生徒に伝授した。

勝浦市立興津中(高瀬利之校長)で日本水難救済会主催の「若者の水難救済ボランティア教室」が行われた。勝浦海上保安署と勝浦消防署の署員が中学を訪れ、事故に遭わないための注意点と心肺蘇生法を全校生徒に伝授した。



2003年(平成15年)7月9日

水曜日

北 日 本 新 聞

### 事故防止・応急手当て学ぶ

水難救済会 氷見市南部中で教室



水難救済会の「水難救済ボランティア教室」が八日、氷見市南部中学校で開かれ、三年生百人が海難事故防止や応急手

当てる基礎知識などを学んだ。同会が若者の事故防止と海の安全に貢献できる人材の育成を目指し、二

生徒らは十班に分かれ、県消防協会救急救命術普及事務所員と氷見消防署員から、心肺蘇生術と応急手当の方法を学ん

真剣な表情で心肺蘇生法を教わる氷見市南部中の三年生。一年前から年二校で開いている。伏木海上保安部の浅田章さんと三階衛さんが「潮の流れが速い庄川や常願寺川の河口付近では決して泳がないこと」と平行に泳ぐこと」などと助言した。

だ。生徒らは「気道を確保し、人工呼吸は一回に二秒間かけて息を吹き込む。心臓マッサージは一分間に百回程度のサイクルでこの助言を受け実習。真剣な表情でこつなどを聞いていた。十四日は新湊市奈古中で開く。

### 水難事故に備え 心肺蘇生法学ぶ

氷見・南部中

水の事故が増える夏休みを前に、救命技術などを習得してもらおうと八日、氷見市南部中で「水難救済ボランティア教室」が開かれ、生徒らが

心肺蘇生(そせい)法な臓マッサージの実技を指導した。「マッサージは一分間に百回の速さで」など説明する署員らの動作を手本に、生徒らも人形相手に挑戦。参加した宇波比奈子さん(18)は「胸を押し手の位置を探すのが難しい。とっさの時」に習ったことが頭から

すっぱり抜けてしまっかも」と話していた。

2003年(平成15年)7月9日(水曜日)

北 陸 中 日 新 聞

### 富 山 新 聞

2003年(平成15年)7月15日(火曜日)



◇：水難救済会の「水難救済ボランティア教室」

◇：写真には十四日、新湊市の奈古中で行われた、二年生百十三人が海難事故防止や応急手当の基礎知識などを学んだ。

◇：教室は事故防止と海の安全に貢献できる人材の育成を目指して開いている。伏木海上保安部の吉田智晴警備救難課救難係長らが、離岸流の危険性などを話した。

◇：人工呼吸の実習では、最初は照れくさがっていた生徒も、素早い応急処置が救命率を上げることが聞かされ、人形を相手に取り組む表情も次第に真剣に。